

スマートテレビ時代における字幕等の在り方に関する検討会
CM字幕ワーキンググループ（第4回）議事要旨

1. 日時

平成26年5月23日（金）14時00分～15時15分

2. 場所

総務省11階 第3特別会議室

3. 出席者

(1) 構成員

音主査、寺島主査代理、木村構成員、後藤構成員代理（藤川構成員の代理出席）、近藤構成員、澤田構成員、島田構成員、菅原構成員、高橋構成員、林構成員

(2) オブザーバー

仲課長補佐（経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課）

(3) 総務省

福岡情報流通行政局長、南大臣官房審議官、奈良総務課長、長塩地上放送課長、徳光地域メディア室長、梶田地上放送課課長補佐

4. 議事要旨

(1) プレゼンテーション

木村構成員及び菅原構成員から、資料4-1「字幕付きCMに関する設備上の対応状況について」に基づき、プレゼンテーションが行われた。

(2) 事務局説明

事務局より、資料4-2「取りまとめ骨子（案）」について説明が行われた。

(3) 意見交換（構成員等の主な発言は以下のとおり）

○寺島主査代理

- ・CM字幕の意義のところ、障害者権利条約の批准のことも触れてほしい。
- ・三団体連携の場について、障害当事者の意見が直接反映されるようにしてほしい。

○高橋構成員

- ・広告の基本である広告主のスタンスを理解した上で検討を進めることが重要。企業内でユニバーサルデザインに対する理解が進まないと前に進まない。
- ・骨子案は放送局や広告会社関係の入口論が多いが、広告主にとってはCM字幕の

通常化には出口の体制が大切。CM字幕の効率、効果をステークホルダーである株主や社内にはいかに理解してもらえるように進めるかが三団体の山場。広告主側の責務だと思ってがんばる。これがブレイクできれば浸透は相当早く、ある程度までは進むと思う。

○澤田構成員

- ・企業として宣伝担当にCM字幕のメリット、効果をきちんと伝えて投資の判断をってもらうのが肝になる。勉強会やセミナーを通じ、CMに字幕を付ける意義、効果を周知すべき。
- ・テレビはARIBの規格にそって作られるが、文字の品位がそれほど良くない。また、アウトスクリーンは字幕が見やすい方式だが、ARIBの標準規格ではなくオプション規定のようである。規格を作るに当たっては、障害者の方の意見も踏まえて、CM、放送を作る側とそれを流すテレビを作るメーカーも含めて、より文字が見やすい方式、規格にしていきたい。

○高橋構成員

- ・企業は年齢や性別に合わせて広告のつくりや展開の仕方を変えている。BSでは高齢者の知識に訴える説明重視、地上波では若い方の右脳に訴える「しずる感」重視でコンセプトが違う。また、加齢による難聴者の方に向けて字幕付きCMをどう作るのかとか、セグメンテーションが細かくなるので、三者で検討が必要。
- ・難聴者人口2000万という数字についても、その中の加齢による聴覚障害・難聴の方などの内訳により対応の仕方について各論でもう少し詰めないで、広告主の判断材料にはならないので、三者協議で対応していかなければならない。
- ・国の支援について、総務省管轄での検討であれば広告主は対象外になる。議論が煮詰まり具体的な課題が出てきたら、各省庁で促進策について論議ができるようにしておいていただけると幸い。

○近藤構成員

- ・スマートフォンでもワンセグテレビで字幕番組を見られるが、機種によっては操作がわかりにくく、メーカーに改善をお願いしている。長い通勤や待ち時間など、ワンセグの視聴機会が増えており、字幕付きCMの検討をする際は、番組もCMもワンセグで字幕を見るニーズが増えるということを認識しておいてほしい。

○音主査

- ・放送局の設備更新が終われば、番組もCMも字幕対応になるのか。

○木村構成員

- ・各社で計画を立てて設備更新をしており、その際に対応するのがよいという考えだとは思いますが、各社の経営状況や体力等による判断があり強制はできない。ただ、テレビ全社会議において営業委員長から、系列を通じて全体的な設備更新も考えてほしい旨を発言するなど、ローカル局にも意識が浸透してきているが、まだロードマップに書き込める段階ではない。

○高橋構成員

- ・現実問題として、地方のテレビ局は地方の広告主が動かないと設備投資ができない。企業への浸透には時間がかかり、広告主の実情を踏まえて進める必要がある。広告主が広告を出さなければ、極端に言えばテレビ局の経営の危機にもなりかねず、とくに地方については丁寧に進めていくことが必要だと感じている。

○林構成員

- ・ロードマップは緊張感を持って継続的に取り組む。基本的には広告主の意思がスタートになるが、理解を得られるよう、広告会社としてはCM字幕の意義を説明し、定量的なデータを整備して提案したい。また、CM字幕が増えれば、体制や人材が今のままでは不安なので速やかに対応していく必要がある。

○島田構成員

- ・制作会社の意識は高まってきている。制作会社の団体とも積極的に意見交換をしていきたい。

○澤田構成員

- ・広告制作側へのお願いとして、ポストプロダクション育成の課題について、CM字幕の効果やノウハウなどをセミナーなどで周知し、制作できる人を育成してほしい。そうすることによってコストも下がるのではないかと。

○音主査

- ・事務局においては、本日までの議論を踏まえて、次回の会合までに取りまとめ案の作成をするようにお願いします。